

## 年頭所感

中澤 靖夫

公益社団法人日本診療放射線技師会 会長



平成28年の新春を迎え、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

平素は本会の事業の推進につきまして、ご理解とご協力を頂き深く感謝申し上げます。本年も昨年同様にご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

初春を迎え、会員の皆さま方におかれましては、どのような夢と希望と目標を抱かれたことでしょうか。昨年は、第31回日本診療放射線技師学術大会、8地域における放射線医療技術学術大会、第9回JART・JSRT合同学術セミナー、第76回定期総会に出席し、本会の考え方を説明しご理解を頂いてきたところです。

昨年のG7はドイツのエルマウで開催され、外交政策としてウクライナ問題、東シナ海・南シナ海問題、北朝鮮問題、中東情勢（イラン核問題、シリア・リビア・イエメンなど）、世界経済情勢としてWTOを中心とする多角的貿易体制の維持・強化およびドーハ・ラウンド交渉の妥結に向けた取り組み、メガFTA（TPP、日EU・EPAなど）の促進について議論された。気候変動については、COP21での「全ての国が参加する」新たな枠組みの採択を後押しすることで一致したと報道されています。

中でも、地球温暖化は人類が抱える大きな課題の1つであります。世界各国は自国の利益だけを求めるのではなく、自国民と他国民と一緒に平和に暮らせる世界をつくり上げていく努力をすべきであります。そのためには一人一人の人間が地球環境の保全のために、身近なところから、確かなるところから、生活改善活動を行っていく必要があります。他人を変えることは大変難しいことではありますが、自分が変わるところから、自分が節約するところから、「もったいない」運動（ワンガリ・マータイ）をすることで、始めることができると思います。

科学技術の進歩は、人類に計り知れない恩恵をもたらします。エックス線は、ヴェルツブルク大学物理学研究所長であったWilhelm Conrad Röntgenによって1895年11月8日に発見され、その医学への応用で人類の健康増進に計り知れない貢献を重ね続けています。この功績が認められ、Röntgen教授は1901年に第1回ノーベル賞（物理学）を受賞しています。2015年のノーベル医学・生理学賞は、北里大学名誉教授の大村智氏（80歳）と米ドリュー大学名誉研究リサーチフェローのW.C. キャンベル氏（85歳）、中国中医科学院の屠ユーユー氏（84歳）が受賞しています。大村氏とキャンベル氏の業績は、寄生虫病の治療薬「イベルメクチン」の開発が評価されました。オンコセルカ症はアフリカや中南米などの熱帯地方で流行し、患者の2割が失明する恐れがあるとのこと。北里大学によると、イベルメクチンはこのオンコセルカ症の治療などで年間3億人の患者を失明から救っているとのこと。屠氏は伝統的な薬用植物の研究を行い、キク科の薬草から取り出した物質「アルテミシニン」がマラリアの治療に有効であることを発見しました。このような科学技術の偉大な発見は人類の幸せと健康増進に役立っています。

世界の指導者は科学技術の成果を全人類で享受するとともに、地球が抱えているさまざまな問題に対して「地球は1つ」「人類は1つ」という視点から、戦争をなくし、人種差別をなくし、平和五原則である領土・主権の相互尊重、相互不可侵、相互内政不干涉、平等互惠、平和共存の下、各国がそれぞれの役割を担う中で世界平和の醸成に努めていただきたいと願うものです。

2014年、業務拡大に伴い診療放射線技師法の一部が改正されました。それに伴い、2015年から47都道府県と連携しながら統一講習会を実施しています。本年も全ての既卒者を対象に統一講習会を実施します。厚生労働省の中に業務拡大に伴う検証委員会が立ち上がり、拡大された業務の質の検証や受講者数についての検証が行われています。本会は、真のチーム医療を推進するために、患者安全を第一優先とし、医療安全の視点からさらなる業務拡大を準備しています。そして「国民と共にチーム医療を推進しよう」をスローガンに、医療者と協働し、質の高い医療技術を提供する診療放射線技師を継続的に支援し、社会的責任を遂行する所存です。皆さま方のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。